

### キャリア支援を考える 14 : 産業振興なくしてキャリア支援なし

Kawakita, Takashi / 川喜多, 喬

---

(出版者 / Publisher)

教育新聞社

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

教育新聞 / 教育新聞

(号 / Number)

2607

(開始ページ / Start Page)

4

(終了ページ / End Page)

4

(発行年 / Year)

2006-03

# キャリア支援を考える

--14

東京・大田区の中小製造業事業所数は盛時の半分以上になつた。

次々と工場が町から消えていく時に、工業高校生が製造業に行きたくないのはけしからんと論ずるわけにはい

くまい。地場産業が10年、崩壊の一途を辿っている産地がある。熟練職工たちが次々と職を追われてハローワークに通つても、その技能を生かす仕事が見つからないときに、その子女たちの理工系離れ、製造業離れは職業観がしっかりとっていないからだと叱りつけるキャリア教育は暴論である。

大型スーパーが郊外に次々と出てきて崩壊する商店街の小商店に職場があつた商業高校の生徒がキャリアの目標を失っていくのは、

ある意味で当然である。細々とはしていてもあつた若年正社員販売店員の口がなくな

り、主婦パートタイマーの口をそれを置き換えてしまへば、商業高校の学生に商店街実習をさせても、それが

インターンシップ体験になるわけではない。ずっと単純作業ばかりをさせられてきたが

ゆえに、高年齢になつても低技能の人々は残念ながら多い。そのよ

うな人たちが就いてきた職を、自動化・省力化で機械に置き換えて

しまふ企業ばかりが増えれば、行政の窓口が高齢者のキャリアアカウ

ンセラーを配置しても、言うべきことは諦めの必要を説くことに限られてしまふ。

法政大学キャリアア  
デザイン学部教授

川喜多 喬

で、OLになれない者はなれない。

Jターン、Uターンしない若者が都会の華やかな職ばかりに憧れるのはキャリア観がゆ

がんでいるからだと思

鳴る者がいるが、かつて彼らに門

戸を開いていた地方自治体

がバラマキ財政のつけで、地方金融機関

がバブル融資のつけ

でも口を閉じてしまつて

おいて、かつ地方にそれでも存在する優良中

## 産業振興なくしてキャリア支援なし

で無理に投資をすれば、つけは結局産業の

衰退につながる。企業が雇用機会開発と称して

関連企業から下請け企業に天下りのポスト

を作つても、やはり雇用機会の偏奇につながる。

産業振興も雇用開発も、産業の修繕場を

知らず、恵まれた安定雇用の中にある行政や

官製団体が旗を振り手算を紹介しても、うま

くいくわけがないように、キャリア支援も教育も

温室の学校関係者には至難の業である。それなのに産業振興行政とキャリア支援行政が縦割り、なわばりで分かれている。教育関係者は実業を見下し、

経済人は短期に成果が出るわけはない教育投資をけちる。新聞はキャリア支援を教育欄でしか扱わず、経済記者は学校に向かない。困つたことである。キャリア支援こそ産業振興に油を差すものであり、産業振興こそキャリア教育を牽引するものである。

以上、蠅螂の斧のつばきをもってシリールを終る。